

三重県精神保健福祉士協会 9 月例会 レポート

三重県精神保健福祉士協会 9 月例会を平成 29 年 9 月 3 日（日）に NTN シティホールにて「意思決定支援と地域移行支援の連携」という内容で桑名ブロックが開催しましたので報告します。

最初に三重県の事業で作成した知的障害者の方が施設を退所して、アパートで一人暮らしを実現していき過程を記録した地域移行の DVD を上映しました。本人がアパートでの一人暮らしを希望し、その意志決定を支えるため保佐人が選任され、地域移行支援、計画相談、一人暮らしのための自立生活体験室を何度も活用した。アパート契約後に本人の光りや音への不安の表出→本人が安心できるアパートへの変更、就労 B 型事業所に通い、ヘルパーの支援を受けながら生活していく本人さんの暮らしぶりが映し出されていました。本人が自分で住むところを決め、それを関係者が見守り、支援していくことで地域での暮らしを支えていくことが、我々、PSW が実践していくべき支援であると改めて感じました。

DVD 上映の後、障害者相談支援センターこだまの島優子さんから意志決定支援と地域移行支援の連携という内容で講演してもらいました。意志決定支援とは何なのか？専門職が本人の意志を無視して決めつけてしまうことでは無く、本人が意志決定ができるように支え寄り添い、十分に話を聴き、本人がどこで？誰と？どうやって暮らしていくのか？を決定すること。そしてその決定した暮らしを継続できるように関係者が支えていくことが重要である。そのためには、本人との関係づくりはもちろんのこと、日頃の関係機関との関係作り、支援会議では味方をたくさん作り数で押すことも重要との話しも質疑応答の中でお話いただきました。「経験が無いということ」＝「可能性があるということ」だということらえ方もとても前向きで参考になるなと思いました。講師の島さんの経験に基づく熱いメッセージが印象に残った講演でした。

医療法人 康誠会 東員病院
辻 謙二